

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
.理念に基づく運営	22
1.理念の共有	3
2.地域との支えあい	3
3.理念を実践するための制度の理解と活用	5
4.理念を実践するための体制	7
5.人材の育成と支援	4
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1.一人ひとりの把握	3
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作	3
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協	10
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1.その人らしい暮らしの支援	30
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
.サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームうららか
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	秋田県 秋田市
記入者名 (管理者)	管理者 阿部幸之
記入日	平成22年3月5日

自己評価票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームうららかとしての理念を玄関前、事務室内、入居者の皆様が集う居間部分に明示しており理念に沿ったケアサービスを提供している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿ったケアプランを作成し理念に掲げているケアが入居者の自分らしい生活に繋がっていける事を目標に全職員が共有し実践に向け努力している。		朝礼で復唱するなどして更なる浸透を図りたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	違和感なく自分らしい生活が出来るように慣れ親しんできた環境を大事に地域の行事に参加したり交流、ふれあいの機会を積極的に取り入れ地域の人達にも受け入れられている。その機会は徐々に増えてきたように思う。		地域との共催イベントをもっと増やしたい。
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の挨拶を取り交わすことから外出、散歩や地域行事への参加の機会を増やすよう常に心がけている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行なわれる行事（夏祭り、かまくら）や消防訓練等に参加している。自施設からも地域の民生委員、町内会長、社協の委員との交流を深めていきたい意思を伝えている。このたび創立された町内の老人クラブにも加入した。		

グループホームうららか

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取組んでいる</p>	<p>日勤帯の職員数、日にちの調整、入居者の状態により難しい現状であるが、ホームのキャラバンメイトを中心に近隣事業所と協力し認知症サポーター養成研修を開催する予定である。</p>		<p>町内の行事をはじめとし、地域の運動会、学園祭、幼稚園、保育園児との交流が出来るように話し合っているが日程の調整がむずかしい。</p>
3.理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価で指摘された改善事項を理解し改善に向けた対策を考え実践するようにしている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>特に災害時の連携について継続審議中である。</p>		<p>特に災害時の連携について継続審議中である。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村からの通達書類や伝達事項に目を通し研修や講演などに出来るだけ参加するようにして職員一人一人が自己研鑽に励み、事業所全体のサービスの質の向上に努めている。市内グループホームの連絡会も立ち上げたので、よりいっそうの意見交換が期待される。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在一人の方が成年後見制度を利用している為、司法書士との連絡や必要な情報を共有している。制度を利用する事により本人の心配や不安解消に役立てたい。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ひやり・はっと報告、事故報告を明確にして定期的に行なうミーティング等で職員相互の事故防止や予防、気付きについて話し合う機会を設け未然に防ぐ努力をしている。</p>	○	<p>虐待・身体拘束に関する内部研修の必要性あり。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>入所に関して暫くお待ち頂く場合もあり施設の空き状況や現状を説明している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>日常生活の中でも職員が汲み取れる体制を強化したい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>ご家族との連絡機会を増やすようにしたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

グループホームうららか

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は無いが離職による影響は最小限になるよう配慮している。</p>		
5.人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への派遣は積極的に行っている。内部研修への傾注が必要。</p>		<p>ミーティング、カンファレンスと併催で研修を行なっていく予定である。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市のGH連絡会を立ち上げ、経営者・管理職・介護職員の交流の場を増やしている。県GH協主催の相互勉強会では双方の全職員が交流した。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に面接を行うよう心がけているが不十分である。</p>		<p>スケジュール化して取り組みたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>必要に応じ個々に対応している。</p>		<p>目標マネジメントをツールとして採用したい。キャリアパスの指標としても。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人および家族と面談、協議し意見交換をじゅうぶんに行っている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>なにが出来て何が出来ていないのか、一番困っている事は何かを聞いて速やかに入所できるように十分なアセスメントを行ない相談に応じる。何時でも相談に応じ何でも言い合える関係を構築できる</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族と面談し相談内容を傾聴し、ニーズを確認しながら行い必要事項、重要事項を説明のうえ、同意を書面で取り交わしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族と事前に面会のうえアセスメントを行い要望や好きな食べ物など、これまでの生活と違和感なくその人らしく過ごせるように注意事項や必要事項を聞く。これまでの生活で使い慣れた物を持ち込んで頂いたり生活状況、病歴、基本情報を職員全員が把握できるよう情報を共有する。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>施設の理念の一つに共感出来ないといふ介護は出来ないとあり喜怒哀楽を共感し本人の話しを出来るだけ傾聴し相手の身に寄り添い自分らしく過ごされるように支援している。</p>	

グループホームうららか

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>理念に沿ったケアプランを作成し理念に掲げている共有、共感に向けたケアを目標に努めその人らしい尊厳ある暮らしや本来もっている力を引き出せるように努めている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>毎月1回、一人、一人の居室担当職員が家族にお手紙を出し日頃の様子などをお知らせし安心頂いている。遠くにいる家族が帰省された時は自由に外泊されたり常時、面会できるように配慮し来られた時は居室でゆっくり気兼ねなく過ごされるようにしている。常時、家族と本人が電話でのお話ができるように取次ぎをしている。</p>		<p>自由に面会して頂きたいが、ご家族が遠くに住まわれたり就業されている為、面会に訪れる回数は少なめで推移している。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>これまで築き上げて来られた本人と家族、親戚、友人との関係が変わりなく継続できるように手紙のやり取りや電話での会話が自由に出来るように支援している。面会、訪問等も気兼ねなく出来るように支援している。</p>		<p>これまでの生活と違和感なく自然に過ごされるように支援していく。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>入居者同士の交流が良好に保てられるように配慮しその時の状況により職員が適度に介入し孤立や友好的になれるように会話の仲裁に入る場合もある。夕食後やお茶時間には入居者同士が声掛けあって自主的に誘い合いソファに移動してテレビを見たりくつろいでいる。</p>		<p>スペース上、一人の入居者が他に及ぼす影響が、他の事業所に比べ大きいと思われるので、随時職員が仲介、誘導する必要がある。</p>
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>ご相談やお話は何時でも受け入れしており信頼関係を大事に支援させて頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日の暮らしの中で入所者様より本人の希望を伺いアセスメントを行い、ケアプランに活かしている。</p>	<p>コミュニケーションを計れる都度、話を傾聴している。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>個人別にファイルを準備し、情報、プラン等をまとめており、全職員が把握するようにしている。</p>	<p>変更、変化が生じた時は速やかに全職員へ報告していく。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>全職員が統一したケアができる様、毎日の申し送り、月一回のミーティングの場を設けている。</p>	<p>チームケアが出来ているかどうかの確認が必要。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入所者様、御家族様より新たな要望や課題が生じた場合は再アセスメントが必要。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日常の行動観察を行い、必要に応じカンファレンス等を開催し、ケアプランの見直しをしていく。</p>	

グループホームうららか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタル測定、水分、食事摂取量、排泄状況等の記録をかかさず細かい気づき等をミーティング時話しあう。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所者様の要望を含め気分転換を計りながら外出（散歩、ショッピング、体育館施設）をしている。		悪天候時は施設内での行事、レクリエーション等 を続けていく。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	地域の子供達との触れ合いや地区の消防訓練に参加している。民生委員、町内会長さんを変え定期的に話し合いの場を設けている。本人の状態に合わせて地域の歯科医の往診、整形外科での受信を受け支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理容、訪問マッサージ、訪問歯科、往診と必要に応じて支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	継続的なつながりは無い。		日常から連携の必要性があるほか、運営推進会議、認知症サポーター養成講座を共催していきたい。

グループホームうららか

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期的に月2回のかかりつけ医の往診、必要に応じかかりつけの歯科往診を受け、健康状態を見て貰っている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>入所以前にみて貰っていた専門医院とかかりつけ医と連携をとりながら支援している。</p>		
45	<p>看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>定期的な往診時は看護職員からも立ち会って貰い、入所者様の健康管理をしていく。また随時オンコールで職員の相談に応じている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院の医療相談室を通じて連携を図っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居開始時と面会時・受診時などの機会に経口摂取の可否が当ホームにおける限界のひとつの目安であることはご家族へ申し上げており、ホームドクター・職員も方針として認識している。</p>		<p>看護師の配置、連携医療機関の往診、訪問看護の体制は整いつつあるため、より重度化への指針を整備したい。医療連携体制加算に対応できる体制をとる。</p>

グループホームうららか

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		ご家族・管理職・職員で統一する必要がある。
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		

グループホームうららか

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の日課はあるも、入所者様に声掛け、確認をしながら支援をしている。</p>		<p>入浴時間やおやつ摂取、レクリエーション、行事の事柄も入所者様の意向を取り入れていく。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>定期的な理、美容店利用により、清潔感が保たれている。</p>		<p>染髪時も自分で色を決めていただく。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事時の準備や後片づけを一緒に行い、職員も一緒に食事を摂取している。嚥下状態などを考慮し、一人ひとりに合った食事を提供している。</p>		<p>できる作業(皮むき、芽とり、盛り付け等)を皆でできるよう支援していく。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品を職員各々把握し、おやつ時、行事等に提供していく。</p>		<p>好きな食べ物を取り入れながら「食」の楽しみを大事にしている。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを知り、気持ちよく排泄できるよう声掛け、見守りをしている。</p>		<p>不快にならない程度のパッド類の使用を心掛けていく。</p>

グループホームうららか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの体調や要望を考慮し、安全に入浴をしていただいている。		入浴が気のすまない時は足浴を勧めたり、清拭をして清潔をたもっていく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の生活状況に応じ自由にして頂いているがあまり遅い時間までのテレビやソファで傾眠中は入眠を促し居室でゆっくり休まれるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や特技を活かし、出来る事柄を積極的に続けられるように支援していく。		マンネリ化しないように色々なアイデアを取り入れていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の判断能力に応じ職員や家族の見守りを得ながら買い物等において自由に使えるように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や健康状態に応じて、職員と散歩に出かけたり、ドライブしたり、また町内の行事へも参加している。		入所者様から出かけたたい所を聞いたり、安全で楽しめる場所を検討してみる。

グループホームうららか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	御家族様より協力を得て外出等される方もいらっしゃる。		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	御家族様からの電話へのとりつぎ、手紙等のやり取りができるよう支援していく。		施設側からもひき続いて近況情報を文章にてお知らせしていく。
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	遠くに家族がいる場合はお盆、お正月、家族の帰省に合わせ施設を訪問して頂いたり本人が家族の日程に合わせて出かけている。近くにいる家族は適宜、施設を訪問され本人と自由にお話したり外出され食事を共にしたり自由に楽しまれている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	安全上やむを得ず身体拘束を行っている。(許可済み)		身体拘束を要しないケアプランを立てていきたい。
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている</p>	夜間帯を除き、日勤帯では玄関の施錠は行わず対応している。		

グループホームうららか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>各々のプライバシーに配慮し巡回やモニターにて所在を確認し、安全確保をしている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>はさみや針などの使用時は必ず職員が付き添い、使用後は回収し、数を確認する。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故報告書を速やかに提出し、防止対策を都度話しあっている。</p>		<p>今一度くり返して確認も含め学ぶ必要がある。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている</p>	<p>市の消防救急救命士からAED操法、心配停止時の応急手当、対応等について順次全職員が講習を受けるようにしている。入居者の状態により緊急時の連絡、協力体制、緊急時の書類持ち出しの準備をしている。</p>		<p>日中と夜間の緊急時対応の再確認を行い持参物の確認をする。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>非常食の準備、近隣との連携など着実に進めていく。</p>		<p>日中と夜間想定の方難訓練を継続する。</p>

グループホームうららか

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>夜間の職員が一人体制である事、ならびに身体能力の低下による転居の必要と可能性がある入居者については入所時およびそれ以降も説明と協議を行って備えるように心がけている。見守りのもとでも転倒事故が起こりうることを説明している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日の記録物に目を通し、一人ひとりの状況の変化に敏感になり、都度申し送る事を心がけていく。</p>		<p>記録・申し送り簿・朝礼などあらゆるチャネルで情報共有を図る。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方箋に目を通し、副作用等を確認、看護師からの申し送りを受け服薬の支援をしている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>医師、看護師の指示のもと薬を服用して貰う。</p>		<p>食物繊維が豊富な食品や乳酸菌、オリゴ糖入りの飲みものを摂取していただく。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後口腔ケアを行なっている、できる部分は自分でおこなっていただき、磨き残し等は職員が介助している。</p>		

グループホームうららか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、摂取量や水分量を確認し都度申し送りを受け不足の部分は回数を増やし摂取していただく。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを基に基本技術を身につける。		実際になった場合を職員でシュミレーションしてみる。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、調理用具、布巾等の消毒をおこない、食品は原則的に必ず加熱して提供している。		職員においても季節によって気をつけなければならない食物について話し合いをしていく。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
き				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	町並みにマッチした家庭的な外観にしている。夜間は外壁をライトアップしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備、清掃をこまめに行い、換気や室温にも気を配り過ごしやすい空間作りをしていく。	○	季節に応じ手の触れる所を消毒液の濃度を考慮し続けていく。

グループホームうららか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やリビングにおいて各々自由に過ごしていただいている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者様の趣味、嗜好を活かし、家具等も使いやすく安全に配慮している。	○	居室担当の職員を中心に環境整備や整理整頓を続けていく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、湿度や温度の確認を行い居心地よくすごせるよう配慮している。常時換気扇を稼働させ外気循環を図っている。	○	引き続き加湿器を利用していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	比較的、歩行、情緒、が安定されている方が2階に入居し見守り強化の方が1階に入居だれている。	○	随時、モニターやチャイムでの確認をおこない、安全に過ごしていただいている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声掛け、対応に留意し、一人ひとりの個性を失わず生き生きと暮らしていけるよう支援していく。	○	安全、安楽を基本にしてADLの低下を防ぎ、出来る事を続けていただく。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ミニ菜園があり、作業の様子を屋内からも見ることが出来る。縁側で夕涼みをしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

.サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホームうららか

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設5年を経過し、平均年齢が85歳、平均要介護度が2.5を超えてきました。この進行度合いにこれまでの家庭的なケアをどういったふうに変化、対応していくかが今後の大きな課題になると思われます。試行錯誤や実践例、他事業所との情報交換を行いながらグループホームうららかのケアを進化させていきたいと思っております。